

会 議 記 録					
会議の名称	公共交通対策特別委員会			会議場所	全員協議会室
				担当職員	加藤 太郎
日 時	令和5年5月26日（金曜日）			開 議	午前10時00分
				閉 議	午前11時12分
出席委員	◎齊藤 ○山本 大西 法貴 大石 土岐 松山				
執行機関 出席者	【まちづくり推進部】信部部長、清水事業担当部長 【桂川・道路交通課】石田課長、門下広域事業・交通担当課長、服部主任				
事務局 出席者	井上事務局長、数井次長、加藤副課長兼議事調査係長				
傍 聴	可	市民0名	報道関係者0名	議員4名（林、山木、梅本、木村）	

会 議 の 概 要

10:00

1 開議

[齊藤委員長 開議]

[事務局副課長兼議事調査係長 日程説明]

[まちづくり推進部 入室]

10:02

2 案件

(1) 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画について

<まちづくり推進部長>

今年度は本市地域公共交通のマスタープランである亀岡市地域公共交通計画（次期計画期間：令和6～10年度の5か年）を策定する年度となる。令和5年3月議会でも多くの議員から公共交通に関する質問をいただき、その在り方が広く問われていることから、市民や地域の声などを十分に踏まえた新計画が策定できるよう努めていきたいと考えている。本日は、ふるさとバス・コミュニティバスの運行状況及び各種施策の取組状況について報告させていただく。

[桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長 説明]

10:22

[質疑]

<松山委員>

次期地域公共交通計画を策定していく中で、アンケート調査等を実施する時期や期間はどのように考えているのか。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

来週の5月29日（月）に開催する亀岡市地域公共交通会議で次期地域公共交通計画の策定スケジュール等を提案する予定である。アンケート調査については、8月中旬から調査票を配布し、9月中に回収したいと考えている。

<松山委員>

地域主体型交通の促進については、令和5年度も引き続き地域の皆さんにお世話になるが、一方で、運転手の高齢化により運営を維持していくことが難しく、適切な人材がなかなかいないとの声も聞いており、市としてどのように状況を捉まえて、今後の対策を考えていくのか。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

委員御指摘のとおり、地域主体型交通の課題の一つとして運転手の高齢化や運営の継続性があると思う。できる限り組織的に継続できるような仕組みとなるよう、市として支援していきたい。運転手の募集等を市で対応することは難しいが、自治会主体でやっていただくことによって、地域の中で協力できる方が増えてくればよいと考えている。

<松山委員>

地域主体型交通については、地域の皆さんの中で運転手を確保して維持していくことが非常に難しい現状であると思っている。これから先の5年後や10年後を見据えたときに、地域の方に運転手の確保や運営の維持をお願いする次元ではなくなってきていると考えている。そうであれば、地域ということだけではなくて、市全体の公共交通網を含めた大きな捉まえ方の中で計画を落とし込む必要があると理解している。一つ一つが事業者側だけの目線でぶつ切りになってしまっている。地域の交通は地域で守ることはもちろん大切であり、JRや京阪京都交通とのこれまでの関係性もあると思うが、市内全体の公共交通に関して市がしっかりとリードしサポートして、抜け目ない交通網をつくっていかなければならない。JRとバスの接続を合わせていくことも一つの対応策であって、そういったことで補えないことを地域にサポートしていただくというしっかりとしたイメージを持つことが必要である。全体の計画を通しての地域公共交通会議であると思うが、もう少し先を見据えた上で計画を考えていくべきではないのか。これから先の人口減少や高齢化にしっかりと踏み込んで、地域公共交通を今以上に市にリードしてもらいたいと思う。

<まちづくり推進部長>

委員がおっしゃるように、地域主体型交通の問題として、運転手の高齢化が確かに進んでいると聞いている。地域ではボランティアの運転手としてかなりの方に登録いただいていると聞いている。今後さらに高齢化が進む中で、例えば、今は川東地域では旭町だけが地域主体型交通に取り組んでおられるが、川東5町全体で連携した広域的な地域主体型交通ができないか。また、西部地域各町も連携して取り組んでいけないかなど、そういった地域の連携についても検討していきたいと思っている。

<大石委員>

先ほどの説明でふるさとバスやコミュニティバスの利用者数はよく分かったが、その内訳として、高齢者等の年齢層、運転免許証返納者、敬老乗車券を利用されている方などの割合はどうか。路線ごとに把握されているのか。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

年齢層は把握していない。ただし、高齢福祉課で発券している敬老乗車券（1冊20枚綴り、一人2冊まで購入可）の数字で言えば、令和4年度は市全体として2,380冊が販売され、使用された枚数は4万3,473枚であった。1回の乗車で1枚の使用となっていることから、イコール実際にバスに乗車された方であったと考えられる。

<大石委員>

高齢者の足がないと地域でよく聞く。そうすれば、運転免許証返納者に対して、また敬老乗車券を販売された中で、それがどのくらい活用されているかがポイントになると思う。敬老乗車券の取組をやったとしても、あまり使われていなければ、足がないという苦情はずっと続いていくと思う。足がないという課題に対してどのように解決していくのかが一番大事であり、そうでなければ、この問題はなかなか解決しないと思っている。敬老乗車券をうまく利用していただくことや、運転免許証返納者に対する効果的な施策が打てておらず、地域の高齢者の困り事として病院や買い物に行くことが大変であるとよく聞く。地域公共交通会議の中で検討すべき重要な課題であると思うが、その辺の姿勢も含めて教えていただきたい。

<まちづくり推進部長>

運転免許証の返納に関しては、自治防災課の所管になるが、今後は連携して何かよい施策を検討していきたいと思う。また、私どもの地域公共交通会議の中では、定時定路線のバスが走っていない地域を地域主体型交通でカバーしていければと進めている状況であるが、特別委員会委員の皆さんからの御意見も取り入れながら、新計画を検討し策定していきたいと思っている。

<法貴委員>

先ほど部長が言われたように、現行の地域公共交通網形成計画が5か年の区切りがつき、令和6年度から新たな計画のもとで公共交通対策に取り組まれるということで、今年が本当に重要な年になると思う。新計画ではデマンド交通等の新たな取組を考えているのかお聞かせ願いたい。

<まちづくり推進部長>

現計画策定時のアンケート調査では、デマンドタクシーに関する需要がほとんどなかった状況であったが、この5年の間に議会や特別委員会の中で、デマンドタクシーを試験的に運行してはとの御意見をいただいているところであり、今年度に策定する新計画の中で、地域公共交通会議の委員に検討していただきたいと考えている。令和6年度からの5カ年計画を亀岡市だけで計画するものではなく、地域公共交通会議の20名程度の委員の中で、どのような内容を新計画に盛り込んでいくのかを議論するものであるので、当会議の中で新たな取組も提案していきたいと考えている。

<法貴委員>

令和2年と3年に市内唯一のタクシー事業者である京都タクシーから、デマンドタクシーに関する提案書が出されて、当委員会でも議論されたと思うが、本市としての方向性や提案に対しての回答はされたのか。

<まちづくり推進部長>

私も提案いただいた際に同席していたが、見積り等をいただく中ではかなりの経費がかかるとのことであった。地域主体型交通であれば、自治会等地域の方や事務員さんが配車手続きなどの事務をしていただいている状況であり、そういったことをタクシー事業者に委託すれば、プロの方が配車システムを利用して、完璧でよい予約制度ができると思うが、経費面で厳しい状況がある。また、デマンドタクシーを導入するにあたって、目的地やエリア等をきっちり絞り込まないと、既存のバス交通の利用者を奪ってしまうことにもなってしまい、互いに潰し合ってしまう恐れがある。バスの赤字が膨らむようなことになっていけぬので、そういったところをもう少し議論しながらデマンドタクシーを検討すべきであり、十分議論した上

で進めていく必要があると考えている。

<法貴委員>

先ほど松山委員からもあった地域主体型交通の運転手不足や高齢化の問題は私も聞いている。運転上の安全も危惧されており、プロの方の運転であれば乗られる方も安心してさらに乗車率も上がると思う。今後、視察等も踏まえていろいろな地域の先進的な取組を勉強していきたい。最後に要望であるが、新たな計画をつくるに当たり、地域のニーズや声を聞くことは非常に大事であるので、過去5か年の計画を十分検証された上でアンケートを収集されて計画にきっちりと反映いただきたい。我々も新計画の策定に向けて提言していきたいと思うので、よろしく願います。

<土岐委員>

市民ノーマイカーDayの実施日と実施していない日では、利用者数が結構変わるものなのか。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

令和4年度の利用実績の平均では、市民ノーマイカーDayの未実施日が3,144人に対して、実施日が3,843人となっており、若干ではあるが利用者は増えている状況である。

<土岐委員>

今聞く限りでは本当に若干であるので、さらに工夫をするか、あまり利用者数が増えないのであれば廃止して、違う施策を考える必要があると思うが、そういったことを検討していくことは可能か。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

市民ノーマイカーDayについては、市の予算として6日間程度であるが、コロナ関係の交付金10分の10がついており、18日間の実施となっている。昨年度の市民ノーマイカーDayはサンガの試合日に特化して実施しており、公共交通としてバス利用を促進していくためには、今後も引き続き取り組んでいきたいと思う。情報発信の仕方などの工夫が必要であると考えている。

<土岐委員>

アンケート調査で地域の方の声を聞いていくとのことであるが、アンケート調査に補足して、地域での安全走行といった運転手の方の意見や、地域の方から交通事業者に寄せられている声を聞くことはできるのか。

<齊藤委員長>

住民や利用者の方の声だけではなく、交通事業者からの意見も聞かれるのかということであるがどうか。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

地域公共交通会議の委員の中に、事業者として京阪京都交通やタクシー事業者にも入っていただいております。その中で実際に運転手の意見も伺うことはできている。

<土岐委員>

ぜひそのような意見も聞いていただき、我々に教えてほしいと思う。そういった面も含めて議論していきたい。

<大西委員>

資料の細かなデータを見てみると、昨年度の取組が生きて少しずつバスの利用者が増えており、路線によってはよい効果が表れていることもよく分かるが、地域の方

にいろいろと話を伺うと、先ほどから何度も出ている地域主体型交通の運転手がボランティアでされている中で、人の命を預かって運転することが不安でいつまでも続けられない、何とか解消してほしいとの声をたくさん聞いている。5年間を見据えた新たな計画を策定するときに、運転手の高齢化やボランティアに頼ることの限界もしっかりと踏まえて計画されるべきとの要望がある。畑野町、東・西別院町、西部地域のような周辺地域はもとより、市街地でコミュニティバスが運行されている地域、坂道が多いつつじヶ丘などの住宅地でも、バス停までが遠いことや坂道を歩くのが難しいとの声も聞いている。たくさんの方々の声を全部生かすことは大変難しいと思うが、せつかく新計画を策定される年であるので、そのような市民の声が生きていることをお願いしたい。質問であるが、資料2 ページ目に京都サンガF.C. 試合開催に伴うスタジアム直行バスの運行についての記載があり、往路と復路の便数に大きく違いがあるが、往路はJR等の違う交通手段で来ているという考えでよいのか。このような便利な直行バスがあって、市内の交通渋滞の緩和につながるのであれば、うまく往路・復路とも利用いただければと考えるがどうか。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

サンガシャトルバスを利用してスタジアムに来られる時間帯は分散しているが、試合後には一斉に帰られるので、帰路の便数と利用者数が増えている状況である。

<大西委員>

分かった。このような便利な直行バスがあるということをしっかりとアピールして利用者を増やすことがよいと考えるがどうか。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

委員のおっしゃるとおりであり、引き続き啓発に努めていきたいと思う。

<松山委員>

運転免許証返納者を含めて、広く市民の方が利用しやすいバス路線にさせていただきたいと思う。特にふるさとバスに関しては、ある路線では市役所に行きたいとしても、乗り継ぎをしないとたどり着けない現状がある。市民の誰もが亀岡に住んでいて暮らしやすいと感じられるためには、市役所や病院、亀岡運動公園、ガレリアかめおかなどといった大事な地点に、どの路線に乗っても乗り継ぎがないような形態を組む必要があると思っている。次の地域公共交通会議で委員から意見を出し合ってアンケート調査をすべきであり、無理を言っているのではなくて、乗り継ぎがないふるさとバス路線を形成していくために、ポイントとなる場所にバスが乗り入れられるような方向を考えていく必要があると思うが所見は。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

ふるさとバスの乗り継ぎに関してそのような意見があることは認識している。一方では、現在5台の車両で目一杯運行している状況であるため、それ以上のことが可能であるのかと、現存の京阪京都交通のバス路線と競合する部分があるので、その辺の調整をしながら、そういった要望に応えられるよう会議で諮っていきたいと考えている。

<松山委員>

令和6年度なのか7年度なのかは分からないが、同時乗り入れに関して民間事業者との調整がつけば、乗り入れしていく方向の制度設計もあると聞いており、計画していく上で考えていただけるとありがたい。

<山本副委員長>

次期地域公共交通計画の策定にあたって、今年度が大事な年になると思っている。

その上で先ほどからアンケート調査を行っていくとお聞きしているが、どのような方を対象とされるのか。また冒頭でまちづくり推進部長から地域や市民の方の声を聞いていくとおっしゃっていただいたが、アンケート調査以外に何か方策を考えているのかを聞かせていただきたい。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

週明け5月29日（月）の地域公共交通会議で諮っていく内容となるが、アンケート調査の対象として、15歳以上の市民の方への郵送アンケート、ホームページを通じた不特定多数の方へのアンケート、バス車内に設置するバス利用者へのアンケートの実施を事務局では考えている。

<山本副委員長>

15歳以上の市民を対象にアンケートを配布するということがあったが、実際にはどのような形でされるのか。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

世帯に一つである。

<山本副委員長>

理解した。そのようなアンケート調査以外に、自治会や実際に地域主体型交通を運営されている方に対して、訪問して聞き取り調査を行うのか。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

自治会には紙の調査票で回答いただく予定である。ヒアリング等が必須とは考えていないが、必要であれば先方に伺って話を聞かせていただくことも考えている。

<山本副委員長>

アンケート調査の結果が出れば、どこの地域でどのような声があると分かってくると思う。そういった地域の声をもって自治会に行ってヒアリング調査をしていただくことが必要である。同じ町内であっても便利なところや不便なところはあると思うので、このような声が出ているということの報告も兼ねて、自治会へのヒアリング調査を実施していただきたい。8月中旬にアンケートの調査票を配布するとおっしゃっていたが、全体的に計画策定のスケジュールとしてどのように動いていき、最終この時点で計画が決定していくというところについては、どのように考えているのか。特別委員会としても、それにしっかりと合わせていく必要がある。

<桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長>

今年度1回目の地域公共交通会議を週明けに開催するが、年間を通じて4回ほど会議を開催する予定としている。時系列で言えば、1回目にアンケート項目の検討を行い、2回目を7月下旬くらいに開催したいと思っている。その中でアンケート項目等を諮った上で、8月中旬頃からアンケート調査を実施する。その後、アンケートを回収し分析を行った上で、11月くらいに3回目の会議を開催し、アンケート結果を踏まえた計画案を会議で諮りたいと考えている。4回目の会議は3月に予定しており、その前の2月にはパブリックコメントを実施して市民から意見をいただきたいと考えている。その折々で特別委員会委員の皆さんに情報提供し連携させていただき、計画の中に意見を反映できればと考えている。

<山本副委員長>

今担当課長からあったように、地域公共交通会議での決定事項等を共有させていただきたいと思うので、よろしく願います。

<齊藤委員長>

ほかになれば、以上で質疑を終えたいと思う。最後に山本副委員長がおっしゃっ

たように、次期公共交通計画の策定に向けて、特別委員会としては素案ができる11月頃までに意見を出していかなければならない。2月のパブリックコメントは流れていく感じとなるので、それまでに今出ている共通の課題を調査・検討し、しっかりと取りまとめて所管に届けたいと思っているので、よろしく願います。

<まちづくり推進部長>

先ほど説明した内容で補足したい。市民ノーマイカーDayの利用者の件で質問があったが、令和4年度は当事業の実施によって、コミュニティバスで2.1倍、ふるさとバスで1.5倍の利用者増があり、市内全域で平均すれば1.5倍の利用者増につながっている状況である。マイカー利用を控えた環境負荷の軽減、また、普段バスを利用されていない方が利用されてバスの便利さを感じていただいております、バスの利用促進につながっていると思っている。令和5年度6月補正でも予算計上する予定であるので、よろしく願います。

<齊藤委員長>

私もバスに乗るときに、ほかに乗っている人がいないこともよくあるが、市民ノーマイカーDayのときは満員で驚いたことがあった。市民にはバスを利用したいという気持ちがあると思う。そういった点や財源等も踏まえて議論していきたい。

[まちづくり推進部 退室]

11:00

3 その他

<齊藤委員長>

大変有意義な意見が出たと思っている。次期計画に皆さんの意見が含まれるよう、特別委員会として提案していきたいと考えているので、よろしく願います。最後に今後の委員会活動について何か意見はあるか。

<松山委員>

委員長がおっしゃったように11月までに提言を取りまとめていく必要があるが、特別委員会として今後6カ月ほどの中で、どのような議論をして詰めていき、提言までもっていくのか、スケジュール感を整理できればイメージが付きやすい。また同時に、行政視察や市民意見の集約なども必要であると思っている。

<齊藤委員長>

11月までに提言する想定の中で、少なくとも会議を3、4回はもたなければならぬと思っており、正副委員長で相談し事務局を通じて皆さんに日程をお知らせしたい。また、近隣自治体で参考となる視察先があればと思うが、市民ノーマイカーDayの実績を見ていると、実施日にはバス利用が増えている状況である。バス利用が減少すれば、バスの運行に対する財源を亀岡市がさらに出していかなければならないことになる。すなわち、バスに乗っていただくと市の負担が少なくなることもつながる。料金を無料にすれば大勢の市民にバスに乗っていただけるが、運行費用を市の財源でカバーしなければならなくなる。そのバランスをどうしていくのかということ、デマンド交通に関する事、また、地域主体型交通における高齢化や安全性をどう対処していくのか、公共交通と民間事業者とのバランスなど、非常に難しい問題がたくさんある。それらをうまく住み分けして、どちらもがウィン・ウィンになれるかどうか、どちらかが我慢するのかということもあり、それを行政がどれだけの財源を出していくのか。市民の負担となるので非常に難しい問題であ

る。本市のように中山間地域を多く抱えているところで、バスを走らせているとどうしても無駄が多くなってしまいが、それを承知で一人でも多くの市民を救っていく形がよいのかをはっきりとしなければ、あやふやになってしまうのではないか。そのところも皆さんに考えていただきたいと思っている。予算審査を受け持つ産業建設常任委員会でも公共交通施策の取組を視察される予定であり、当特別委員会でも先進的な取組をしている彦根市等の近隣市へ行政視察に行きたいと思うが、予算的には事務局どうか。

<事務局副課長兼議事調査係長>

近隣市であれば対応できる範囲内であると考えます。

<齊藤委員長>

行政視察については、正副委員長で相談し提案したいと思うが、皆さんからもよい視察先があれば提案いただきたい。

<大石委員>

11月までに何回か会議をやらなければならないが、アンケート調査の結果や傾向をしっかりと把握した上で、今後の特別委員会の取組を考えていかなければならない。もう1点として、民間を活用したような公共交通の取組はないのかと思う。今は既存の交通事業者に運行をお願いしている形であるが、もっと民間の力を借りるようなことで市民の足を確保できる施策があれば、それも一つの方法であると思う。例えば、稗田野町であれば温泉宿や料理屋があるが、送迎用のバスは限られた時間しか動いていないので、市から補助金を出してでもうまく活用して市民の足を確保するなど、実現するかどうかは分からないが、そのような広い視野で考えていかなければ、既存の交通事業者だけでは市の負担が大きくなってしまふ。互いにウィン・ウィンになるような施策を打っているところがあれば、課題を解決する一つのヒントになると思う。

<齊藤委員長>

利用できることを互いに利用してやっていくことは、非常によい案であると思うが、公共交通に関する法的な縛りが非常に厳しい面があり、実現するには大変難しいのではないかと考えられる。執行部はアンケート調査の状況や結果について逐次説明するとのことだったので、それを踏まえて検討していきたいと思っている。

<山本副委員長>

先ほどから御意見が出ていたが、地域主体型交通で運転手が高齢化していることや、事故があったときの保障など、いろいろな心配事があると個々に聞いているが、それぞれの地域の取組や課題についてきっちりと話を聞きに行くことが今までなかった。4地域で地域主体型交通に取り組みされているので、聞く内容を統一した中で、できればこの機会に実際に話を聞いてみればと思うがどうか。

<齊藤委員長>

地域主体型交通に取り組みされている現場の意見を聞きたいとの案が出されたがどうか。

<土岐委員>

先ほどの話を聞いていれば、市と地域であまりコミュニケーションが取れていないと感じられるので、ぜひとも話を聞いてみたいと思う。

<松山委員>

ぜひそうすべきである。

<法貴委員>

東別院町の取組を聞いたことはあるが、ほかの地域の取組についても聞かせていただきたいので、賛成である。

<齊藤委員長>

そのようなことで進めてよいか。

—全員了—

<齊藤委員長>

日程を調整して皆さんに御案内させていただければと思う。次期地域公共交通計画の策定に向けて、本日出された意見の方向で特別委員会を進めていき、しっかりと提案していきたいと考えているので、委員の皆さんには御苦勞をかけるがよろしく願います。

散会 11:12